

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901514		
法人名	有限会社 神居寿々蘭の里		
事業所名	グループホーム 喜		
所在地	旭川市高砂台8丁目3番10号 (電話) 0166-69-2511		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月25日	評価確定日	平成22年4月28日

【情報提供票より】 (22年 3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 10人, 非常勤 2人, 常勤換算11人	

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板 造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円
			暖房費(10～4月) 8,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要 (3月 15日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	1名	要介護2	5名
要介護3	4名	要介護4	4名
要介護5	2名	要支援2	2名
年齢	平均 82歳	最低 63歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木内科クリニック、旭川赤十字病院、森山病院、旭川高砂台病院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年3月にホテルを改造して、グループホームとして運営されています。ホームの随所に以前のホテルとしての名残がありますが、運営者は利用者の利便性を考慮しながら、改造を加えて運営されています。モータープールの向こうには桜の木々に囲まれた池があり、利用者と地域住民の散歩路として利用されるなど、地域交流の良きスポットとなっています。職員は、開設以来のベテラン職員により、新人職員の教育も円滑に行なわれサービスの徹底化が図られています。また、調査における一番の特記すべきは、バラエティに富んだ食事内容であり、全て職員の手作りで家庭の味が提供されていることです。このサービスが今後も継続されるよう大きな期待をします。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前年度からの取り組むべき課題は9項目でしたが、「家族への報告」など5項目が改善もしくは改善に向けた取り組みが見られます。ただ課題の全てを職員が把握するなどの改善に向けた共有の体制、また、運営推進会議への報告などは、まだ十分とは言えません。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 自己評価は、日頃のサービスを振り返る大切な機会として捉えて、職員個々の気付きなどが、ユニット毎の評価に表れる取り組みを望みます。また、課題への取り組みも「目標達成計画書」に基づいた計画的な改善に向けた取り組みが期待されます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>② 現在、不定期な開催となっていますが、できるだけ2ヵ月毎の開催が望まれます。そのためにはメンバーの柔軟な拡大と共に、会議の内容もユニークで魅力ある課題を取り入れるなどの工夫も望まれます。加えて評価での課題取り組みについて会議で公表しながら、毎回、進捗状況を報告するなど、モニター役を担っていただく取り組みも期待されます。</p>
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問頻度はあまり高くはありませんが、訪問時または電話を利用して家族の意見、要望、苦情などを聞きながら、ホームの運営改善に反映されるよう努めています。家族会での意見や意見箱の有効利用など、更に検討を要しますが、アイデアを含めた改善に向けた取り組みが期待されます。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域の事業参加、とりわけ利用者も参加できる清掃事業や廃品の回収作業など、地域とのつきあいは広がりを見せています。前庭の桜の時期には、地域住民の方々の散歩路にもなるなど、住民の顔が見える交流が続いています。運営者は、これまで以上に地域との交流による真の地域密着型サービスの拠点にと、日々努力が続けられています。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と家族を大切に思う3本の柱から成る理念が謳われており、現在、地域の中で暮らし続けることへの支援及び地域との支えあう関係作りを基本とした理念の文言挿入を検討しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念の斉唱を行ない、日々の業務に反映するように努めています。また、新人職員に対しては、理念が意図するところを十分に理解できるよう指導し、実践できるよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事には積極的に参加すると共に、ホーム行事にも地域住民の方々の参加を呼び掛けるなど、地域とのつきあいが広がりを見せています。ホームの前庭に広がる桜の満開時には、近所人たちの散策コースになるなど賑わいを見せています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成に当たっては、日頃のサービス提供及び支援について、職員それぞれの振り返りが大切で、それらを基にユニット毎の自己評価が作られる必要があります。両ユニットが同じ評価では、まだ十分とは言えません。	○	自己評価は、日頃のサービスを振り返る大切な機会と捉えて、職員個々の気付きなどが、ユニット毎の評価に表れる取り組みを望みます。また、課題への取り組みも「目標達成計画書」に基づき計画的な取り組みが期待されます。

旭川市 グループホーム 喜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの現況、利用者の様子、行事の紹介などが行なわれていますが、昨年からの課題でもある定期的な会議の開催が十分ではありません。また、評価の公表と改善に向けた取り組みが提示されていません。	○	出来るだけ2ヵ月毎の定期的な開催を期待します。そのためには、メンバーを幅広く選出し会議の内容も柔軟な工夫が必要と思慮します。また、評価で得られた課題への取り組みを「目標達成計画書」に基づき毎回報告するなど、モニター役を担っていただくなどの取り組みが期待されます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口とは、介護全般に関して積極的な相談を行なって運営に役立っています。生活保護受給の利用者の状況、他の老人養護施設からの移動の是非など、様々な指導や意見の交換をしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	昨年からの課題であります「会報の発行」や、利用者の日常の様子を知らせる「おたより」が実行されるなど、成果が上がっています。また、これまでも増して家族との関係を密にしなが、訪問時や電話などを利用して報告に努めています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問頻度は高くはありませんが、訪問時を利用して意見や要望、苦情などを聞き、ホームの運営に役立てるよう努めています。家族会も不定期に開催されていますが活発な意見交換、意見箱の有効な改善と工夫などが検討されており、それらの成果に期待します。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への担当職員を予め決めることなく、職員全員が利用者へのサービスと暮らし支援に努めており、馴染みの関係を築くようにしています。運営者は職員との良好な関係作りにより、異動や退職を必要最小限に抑えるよう配慮しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市が主催して行なう研修会、グループホーム研修会や複数事業所連携事業の研修会など、勤務のシフトを変更するなどしながら、出来るだけ多くの職員を参加させ、個々のスキルアップに努めています。参加で得た情報などは、全体ミーティングで報告するなど共有を図っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研究会や複数事業所連携事業での交流により、次第にネットワークが拡大を見せています。今後は多くの職員を対象とした、他ホーム視察など、相互訪問によるサービスの質の向上を図る取り組みも予定されています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用を前に、利用者には出来るだけ家族と共に訪問をしていただき、雰囲気など納得し、安心してサービスが受けられるよう配慮し、入居を決めています。入居当初は、いきなりサービスを開始するのではなく徐々に馴染めるよう気配りをしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は運営理念で謳われている「感謝と敬意の気持ち」を大切にしながら、利用者と一緒に暮らしの中から学んだり、支えあう関係作りが日常的に継続されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者が歩んできた人生や生活歴を事前に把握しながら、利用者の思いや意向を把握し、暮らしへの支援が行なわれています。困難な場合には、家族の協力も得るほか、利用者本位に検討しています。職員は言葉によらない所謂ノンバーバルコミュニケーションも駆使して、利用者の思いや意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らしを継続するための、アセスメントが十分ではありません。また、家族の意見を取り入れながら、利用者が「できること、できそうなこと」のアセスメントは、繰り返し行なわなければならないと思います。また、介護計画の実践については計画に基づいた日々の記録が連動される仕組みが欠けています。	○	サービスの骨子となる介護計画には、利用者及び家族の意見などが取り入れられた課題とケアが明示され、それらの実践が記録として反映される必要があります。また、「できること、できそうなこと」など日常のモニタリングやアセスメントを重ねることで、介護計画に的確に反映させるための連動した日常の記録を期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行なわれているほか、家族の要望や利用者の状況変化などには、医師の指導もいただきながら、現状に即した見直しが行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の訪問時には必要な場合、宿泊の便宜を図るなどしています。また、家族の事情による通院や送迎の代行など、ホームの有する多機能を駆使した支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が従来利用していたかかりつけ医への通院治療には、家族と相談の上、支援をしているほか、ホームの協力医とは毎月1回の診療など、綿密な連携で利用者の健康維持に努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者及び家族には入居時、契約書に記載されている重度化や終末期に向けた方針を説明しているとしていますが、内容的には不備が多く方針とはなっていません。また、医療連携体制としても方針の成文化と家族等への十分な説明の必要があると思慮します。	○	ホームでの医療行為が出来ない状況や重度化などに対応した方針を家族に説明すると共に、職員の全てが共有してサービスの提供が必要となります。また、一度の説明に終わることなく、状況を踏まえ家族や医師を交えた話し合いが必要です。医療連携体制としても方針の確立が不可欠となりますので、早急な取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の評価で指摘され改善への取り組みとなった面会簿は、連記式から単票のカードに変更されるなど改善されています。職員は常に感謝と敬意の気持ちで言葉掛けを行なうなど優れた対応が見られます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には職員の都合で事を運ぶことが見受けられ、職員間ではその都度、注意をしながら、利用者の意思や希望に沿う支援が行なわれるよう気配りをしています。管理者は家庭的な雰囲気を経営しながら、穏やかで安らぎのある生活の継続に配慮しています。		

旭川市 グループホーム 喜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員間で献立を工夫して、利用者が好まれる食事作りが行なわれています。提供される惣菜などは旬の食材を使用して、全て手作りと言うのも自慢の一つとなっており、1週間の献立は家族へも知らされています。職員は利用者の間に腰掛けながら、楽しい会話で食事がより楽しめるよう努めています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を設定しながら、利用者がゆっくりと入浴を楽しめるよう努めています。状況によっては、シャワー浴なども取り入れた支援が行なわれています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	温室での菜園、花壇の整備、ひな祭りなどの行事に際しては会場の準備、廃品回収や清掃活動など町内行事への参加をするなど、利用者は楽しみごととして役割を果たしながら、生活の中に生きがいを感じられるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもりを避けるため、夏季の間は努めて散歩などの外出を支援しています。前庭の広い庭園では桜の花などを愛でる利用者が見られます。2週間に1度はホーム内で訪問販売店が開かれますが、利用者の希望により、近くのスーパーマーケットでの買物も楽しみの一つとなっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やユニット間での施錠はありません。1～2階の階段には転落防止の柵が設えられています。職員と一緒にユニット間を行き来する利用者もいます。職員は玄関のセンサーによるチャイムのほか、見守りによる事故防止に努めています。夜間のみ防犯上、施錠しています。		

旭川市 グループホーム 喜

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時の対応をきめ細やかに検証して、年2回の避難訓練が行なわれています。2階からの避難経路が3箇所を有して、利用者を含めた夜間想定誘導や救急救命の訓練も行なわれています。隣接の宿泊施設の協力体制に加えて、地域住民の協力参加が徐々に増えてきましたが、これまで以上に地域の協力を期待します。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者の好みや希望などを取り入れて献立が作られています。既製の惣菜は一切使用せず、全て手作りで、バランスの取れた家庭の味が提供されています。水分の摂取は、毎日記録され適正な摂取で、利用者の健康維持に配慮されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホテルを改造した居間や食堂、浴室などは、窓の外に広がる市街地を一望でき開放感に満ちた居心地の良い空間となっています。夏季に使用される2階の大きなテラスも季節感が味わえる絶好の場所となっています。以前段差のあった廊下の随所にスロープが設置され車椅子の移動にも配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホテルの客室を改造した利用者の居室は、21～26㎡と広いスペースを有しており、持ち込まれた馴染みの生活用品が整然と設えられています。施設長や管理者・職員は家族と相談しながら、少しでも家庭的な雰囲気の居室にしようと、写真や絵画などを飾るなどの配慮が行なわれています。		

※ は、重点項目。